

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171100096		
法人名	株式会社 幸風		
事業所名	グループホーム幸風		
所在地	鳥取県岩美郡岩美町浦富434-25		
自己評価作成日	令和6年8月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3171100096-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和6年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日常生活に大切な家事活動を中心に、楽しく作品作り等へ参加して頂いています。また、入所者様一人ひとりのペースを大切にしており、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援を常に心掛け、安心して生活を送って頂いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設から10月には20周年を迎えられる2階建てのグループホームです。長い歴史の中で地域のボランティアの方達との交流も盛んに行われてきました。コロナ禍になり一時中断されていましたが、少しずつ再開されて利用者も喜ばれています。また、併設のデイサービス利用者には地域の馴染みの方もおられ、交流の機会が持たれています。利用者一人ひとりが望む生活ができるよう、ゆったりとした時間を職員と共に過ごされており、洗濯物を畳まれたり、食事の準備や手伝いなど日々お一人お一人が役割が持てるようにしておられます。食事は3食手作りで提供されており、季節に応じたつるし柿や梅干し作りも行われており、行事食や誕生日のケーキ、手作りおやつ等、食の楽しみを大切にされています。看護職員が多く配置され、協力医療機関と連携を取りながら、急変時にも迅速な対応が行われています。利用者・家族が共に安心して暮らせる体制を整えられています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示を行い、常に理念を共有し実践につなげている。	職員の異動も少なく全職員で理念を協出来ておられます。理念は掲示も行われ、常に意識しながら実践へと繋がるよう心掛けておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大切に考え、地域ボランティアの方々と定期的に交流が図れている。	開設時より地域との関わりを大切にしてくださいました。コロナ以前は定期的に地域ボランティアも来られていました。5類移行した現在は状況を見ながら少しずつ再開されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2カ月に1度開催することで、地域の方々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度運営推進会議を行い、その中で出た意見を取り入れ、サービスの向上に活かしている。	利用者家族、地域の方、町の担当課等で構成された委員の方に2ヶ月に1度集まって頂き運営推進会議が開催されています。会議内でホームの状況を説明し、意見等を頂きサービス向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営委員会の時や、電話連絡にてその都度報告を行う。	運営推進会議にも参加頂き、介護保険、コロナ対応、熱中症予防のお知らせ等情報提供を頂いております。請求についての相談や運営指導等岩美町役場とは連絡を密にされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行っていないが、転倒リスクを考え、ご家族様同意のもと、ベッド前にセンサーマット・赤外線センサーを使用させて頂いている。	身体拘束廃止委員会は3ヶ月に1度開催されており、委員会後にはホーム内でも研修が行われています。職員は利用者との信頼関係を築き、身体拘束をしないケアを心掛けておられます。転倒リスク等が高い利用者に対しては家族の同意を得て、センサー等を使用される場合もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々、利用者様への言葉遣いをはじめ、虐待に繋がらないように注意を払っている。また、委員会による学ぶ機会を持っている。	虐待防止指針作成され、虐待防止委員会も3ヶ月に1度開催され、委員会後には研修も行われ学ぶ機会を持たれています。言葉による虐待やスピーチロックに繋がらないように日頃から言葉遣いに気を付けておられます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点がないよう、十分な説明を行い、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時などに意見・要望を伺い、運営に反映させている。	利用者の方には日々意見・要望を聞かれています。家族には面会時、電話で様子をお伝えした際やプラン変更時に意見・要望を伺われ、運営に反映できるよう心掛けておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・スタッフ会議の時、事前に意見や提案をきく機会を設け、反映させている。	2ヶ月に1度の全体会議や毎月のスタッフ会議で事前に意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう取り組まれています。職員が意見の言いやすい風通しの良い職場を目指しておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を行い、個々の職員の状況把握をし、面接によって話し合い、給料等の評価を行っている。また、職員がやりがいを持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。	人事評価が行われており、管理者との面談が実施され、職員の頑張りを評価し給料にも反映されています。職員がやりがいを持ち、働きやすい職場環境になるよう取り組まれています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った研修の機会を確保している。また、技術的な事等、業務を行いながら指導している。	日々の業務内容については、OJTも行われています。年間研修計画も作成され、個々に合った研修の機会を持たれています。オンライン研修も活用されています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は図れていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に寄り添い声かけを行うことで、安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できる限り、ご家族様の要望に耳を傾け、意向に添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の「その時」の困られていることを見極め、その都度対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様と生活を共にし、支え合う関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでもご家族様と連絡をとり、ともにご本人様を支えていけるよう、関係を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類に移行してからは、以前のように馴染みのある方や、併設されているデイサービスの利用者の知り合いの方等の面会を行ったり、住み慣れた地域に外出する機会を設けている。	コロナ5類移行に伴い、状況を見ながら家族との面会や地域の知り合いの方や併設のデイサービスを利用されている知り合いの方と関係性が継続できるよう取り組まれています。また、住み慣れた地域に外出機会も設けておられます。	馴染みの方や場所へ行かれて時にはその方や場所の思いで話を頂き、回想法へ繋がるよう期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ったり、声かけを行うことで利用者同士が関わり合い、支え合えるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了していても、ご本人様・ご家族様の相談等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりに対して暮らし方の希望、意向を把握し、その方が暮らして来られた環境に近づけるように努めている。	利用者一人ひとりの暮らしの中での希望や意向に沿えるよう、日々の会話から聞き取り把握されています。意思表示が難しい方は家族から生活歴等を伺い本人本位になるよう努められています。	本人が理解できる生きがいに繋がる目標を見つける工夫に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の生活歴やお好きな事を把握し、その方が暮らして来られた環境に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日午前・午後のバイタル測定、体調確認を行い、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様が、その人らしく暮らしを続けるために、ご本人様・ご家族様・関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者・家族の意見や要望を取り入れながら、利用者がより良く暮らすための課題やケアについて多職種により検討を行い、介護計画が計画作成担当者を中心に作成されています。モニタリングは毎月行われ、見直しは原則6ヶ月毎に行われています。変化の見られる場合には随時の変更も行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月モニタリングを行い、6ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。	記録はすべてタブレットで入力されています。介護計画に見直しにつながる日々の記録となるようにしておられます。プラン変更時の留意点については計画作成担当者が職員に伝え共有しておられます。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、できる限り柔軟な支援やサービスを行えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書を利用したり、地域ボランティア（大正琴・ハーモニカなど）の方に来て頂いたりする事で、暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療以外にも、本人様の体調により、ご家族様に相談しながら、かかりつけ医との連携をとり、適切な医療を受けられる支援をしている。	利用者・家族の希望を大切にかかりつけ医を選んで頂いています。協力医療機関による往診がある為かかりつけ医とされている方も多いです。協力医療機関とも連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援されています。歯科は協力医療機関で対応して頂いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、看護師にご利用者様の体調等の報告を行い、異常があればその都度指示をもらい、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に主治医の先生と連携を図り、入退院時の関係作りは行っている。	協力医療機関に入院が可能なので、主治医との連携を図りながら、安心して入院、早期に退院できるよう取組まれています。地域連携室とも情報共有しながら、入退院時の関係作りが行われています。退院カンファレンスでは退院後の注意点等のアドバイスももらわれています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される前に話し合い、また重度化される場合もご家族様と方針を共有している。	利用開始時には終末期についての指針の説明をされ同意を得ておられます。重度化が進んできた段階で主治医、家族、ホーム職員でと相談され、その後の対応が決定されます。協力医療機関に入院が可能となっており、体調の急な変化にも迅速な対応も行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、救命救急の訓練を行っている。また、ノロウイルス等の処置方法の講習も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練、消火訓練は行っている。	年2回避難訓練、消火訓練が行われており、内1回は消防署の立会いで行われています。BCP計画も作成されており、備蓄品も用意されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の人格を尊重し、丁寧な言葉かけや対応を行っている。	職員間で話し合い、互いに気を付けながら、利用者の尊厳を尊重した丁寧な言葉掛けやケアが実施されています。接遇研修も繰り返し行われています。特に排泄・入浴の際にはマニュアルに従いプライバシーに配慮されたケアが実施されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が選択できるように促し、自己決定ができるよう働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り1人ひとりのペースを大切にしているが、職員都合になっている面もみられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限りご本人様が着たい服を選んで頂き、着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方に限られるが、職員と一緒に食事の準備・片付けを行っている。	食事は3食手作りで提供されています。職員と一緒に食事の準備や片付けをして頂ける方もあります。誕生日の方にはケーキの提供、行事食、おやつ作りもされ、食事が楽しめるよう工夫されています。季節毎につるし柿や梅干し作りも職員と一緒に行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は1日を通して確認を行い、確保している。また、1人ひとりの状態に合わせた水分量の確認を行い、確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。義歯の方は、1週間に1度洗浄液に入れている。	毎食後個々の状況に合わせて、声掛けや介助をし、口腔ケアが行われ、口腔内の清潔が保持されています。義歯の方は食後は入れ歯を磨き、1週間に1度洗浄液されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンや尿量を把握し、できる限りトイレでの排泄を行っている。	チェック票等を使用し、個々の排泄パターンを把握され、声掛けやトイレ誘導、排泄介助等それぞれに応じた支援が行われています。現在全員トイレで排泄されており、最期までトイレで排泄して頂けるようケアを続けられています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師と相談しながら、下剤等で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めており、入浴して頂けるよう支援している。	基本的には週2回、日曜日はお休みです。午前・午後、行事・体調に応じて入浴されています。皮膚の状態に合わせ、薬の塗布や清拭で対応もされています。現在は特に強い入浴拒否の方もなくみなさん入浴の時間を楽しんでおられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には1日の流れは決まっているが、1人ひとりの体調等により、休んで頂けるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用途を理解し、症状の変化に気を付けるように努めている。	協力医療機関の薬局まで薬を取りに行かれ、看護職により服薬管理が行われています。薬に関する情報や薬の変更時には職員に周知され、注意して様子を見て、変化が見られたら看護職に報告し、医師へ連絡され指示を仰がれます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの趣味や楽しみ、好きなことを理解・把握して、気分転換を図りながら、定期的実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの希望には添えないが、できる限り外出する機会を設けている。	家族と出かけられる方もあったり、ホームの敷地でお茶を飲まれることもあります。季節に応じたお花や紅葉をドライブを兼ねて少人数で見に行かれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に相談し、同意があれば所持して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が間に入る事で、ご本人様とご家族様の電話のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間で生活して頂けるように、掃除は毎日行い、季節感を感じて頂けるように、壁飾りをしたりと工夫をしている。	温度・湿度、換気にも気を付け快適に過ごしていただけるよう、清潔な空間になるよう努めておられます。レクリエーションに時間に利用者と一緒に作られた壁飾りも季節に応じて飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方は、隣同志に座って頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真を飾ったり、好みの物を持ち込んで頂いたりしている。	利用者が自分の部屋として居心地よく過ごしてもらえるよう、自宅で使い慣れた物や写真など持って来てもらわれています。また、利用者の身体状況に応じてベッドの位置も変更され動線確保も行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や各居室に顔写真を貼るなど、ご本人様・利用者様が分かるような工夫を行っている。		